

狂院の窓から春を惜しみけり

野本 京

私の吟行地、高知市の禅寺吸江寺^{あきえいじ}。その裏手には墓地が広がり、精神科病棟の建つ丘があつた。菜の花の中でふと視線を感じ、上の方を見ると窓に立つ人影。ぼうつとしずかに、少しも動かず遠くを眺めていた。映画で見た、精神病院の窓に佇むゴッホと重なつた。

昭和六十年作